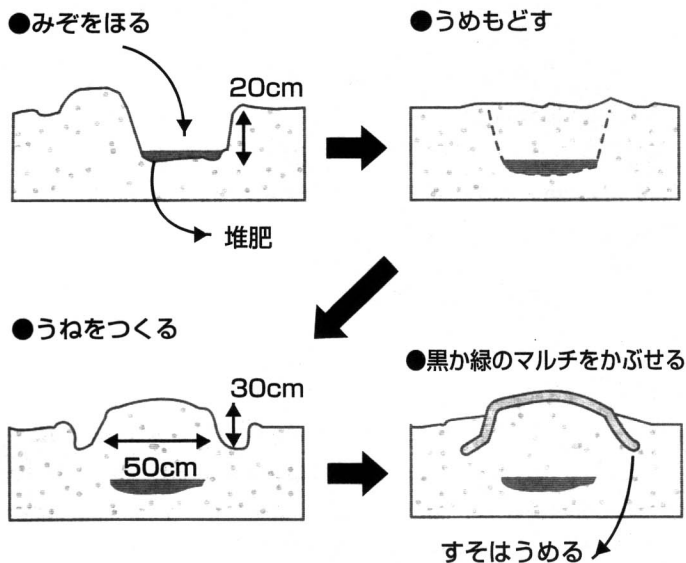


■たくさんとるには

サツマイモは、どんな畑でもとれる。ただ土に苗を埋めただけでも、サツマイモはできるけど、なるべく大きなイモを、たくさんとりたよね。それなら、これだけはやってみよう。大事な順に話すよ。

まず、苗を植えるのは5月の中ごろにすること。それから畑の準備も大切だ。植える2週間前に、畑に肥料を少しまいて（肥料の種類とまくりょうは園芸店で聞くこと。まきすぎはぜったいダメ）土を深く「ふかふか」によく耕すこと。そして、20cmの深さにみぞを掘り、そのみぞに「堆肥」をあつさ5cmくらいにしてからみぞを埋めもどす。次に、苗を植えるための「ベッド（うね）」を作る。くわしくは6ページと、下の絵を見て。そのうねの上に、一列に、苗を植えていく。苗と苗の間は30cmはなす。



■もっとたくさんとりたい！

次のことを、いくつでも、できるだけやってみよう。まず、畑を選べるなら、日当たりがよく、水はけがよくて（雨がふってもすぐ乾く）ふかふかやわらかい土の畑にしよう。「堆肥」がたくさんあるなら、4月の始め（これより後はダメ）に畑にまいて深くたがやしておく。量は、1m四方にバケツ1杯くらい。このとき、堆肥といっしょに「クド石灰（くわしくは園芸店で聞こう）」を1m四方に手にひとにぎりまけばなおよい。あと「うね」をつくる時に堆肥のみぞにしくけど、そのとき草や木を燃やしたときにできる「灰」もいっしょにしくとよい。うねを「マルチ」でくるむのもよい。「わら」があるなら、うねとうねの間できるだけ厚くしておくのもいいよ。ここまでやれば完ぺきだ。

■よい苗・よい植え方

苗を園芸店で買うときは、よく選んで。クキが太くて、葉がぴんとしているものを。いろいろな種類のサツマイモを作りたいなら、早めに園芸店に相談してみよう。インターネットで売ってくれる人を探すのもいいね（ふつうに売っているのは「ベニアズマ」が多い）。

植える前は、苗の切り口を1cmくらい切って、1時間水に切り口をひたしておく。植え方は、苗を土の上にねかせて、葉っぱのつけねを土におしこんで埋める。苗が小さい時は、ななめに土にさすように埋める。葉は、必ず土の上に出るように。この、葉のつけねから根が出て、それが太ってイモになるんだ。植えたら水をかけておこう。

■苗をうえたあとは・・・

植えたあと、葉がしおれたら、ちょっと水をやる。10日もたてばぴんとしてくる。あとはほとんど何もすることはないけど、草むしりはやろう。水もあげなくてよい。のびたつるの途中から出て、土にもぐる根は切ってしまおう。

■これは失敗のもと

植える時期を早くしたり遅くしたりしない、肥料とクド石灰をいっしょにまかない、肥料をまきすぎる、クド石灰のかわりにライン引きで使う「消石灰」は使わない。

■いつ掘ればいいのか？

10月になったら、少し掘ってみよう。サツマイモのおしりの方が、丸くなっていたらOK。とがっていたら、もう少しおこう。

■袋栽培のポイント

なるべく大きくて丈夫な袋を使い、かならず底に穴をあけておく。いちばん底には、堆肥を2～3cmしいて、草や木の枝を燃やしてつくった「灰」をひとつかみまき、それから土を入れる。土は、プランター栽培用のふかふかの土か、土と堆肥を半々によくまぜあわせたものを入れよう。植える苗は1～2本ぐらいいしておく。おき場所は、よく日光が当たる所がいいね。畑と違って、水は一週間に一度は必ずあげよう。土が日光で暖まりやすいので、ふくろの外側は段ボールでくるんで守ろう。